

1. コロナ禍における学びの保障と小中学校の取組について

(1) 市立小中学校における児童生徒の新型コロナウイルス感染状況

8月に児童生徒の新型コロナウイルス感染症の感染者数が急増し、本市においても8月20日(金)から三重県まん延防止等重点措置が適用され、さらに8月27日(金)に三重県で発出された緊急事態宣言が9月30日(木)まで延長された。現在は、コロナ感染者数は減少しているが、予断を許さない状況である。

<参考> 新型コロナウイルス感染者数(人)

	令和 2年度	令和3年度								総計
	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	
小学校	7	13	11	4	10	76	34	0	148	155
中学校	10	3	7	5	4	68	10	1	98	108
合計	17	16	18	9	14	144	44	1	246	263

(2) 子どもたちの学びの保障に向けた対応等

市立小中学校においては、可能な限り児童生徒の感染リスクを軽減するとともに、緊急時においても教育活動を継続し、児童生徒の学びの保障を行うという観点から、2学期当初の教育活動を自宅等におけるオンライン学習により実施した。

その後、9月初旬の本市の感染者数が減少傾向にあったことから、「学校の新しい生活様式」を踏まえ、感染症対策を徹底した通常登校での教育活動を段階的に実施していくこととした。

・ 8/30(月)～31日(火) 個別登校

- 分散登校は行わず、2日間に分けて、時間差をつけた個別登校を原則とした。
(保護者の送迎による登校も可)
- 始業式は行わず、登校時は、課題の受け渡し等を行った。
(保護者のみが来校しての受け渡しも可)

・ 9/1(水)～15日(水) 自宅等におけるオンライン学習

- 授業の内容は、リモート授業、オンライン教材の活用、プリント等による習熟学習等
- 通信環境が整っていない家庭には、Wi-Fiルータの貸出を行った。
- 時間割については、次ページに記載

・ 9/16(木)～17日(金) 分散登校

- 健康観察、感染症対策の指導、授業等
- 給食、昼食なし

・ 9/21(火)～ 通常登校(午前中授業) ※部活動は行わない

- 小学校 通常給食実施
- 中学校 デリバリー給食実施

・ 9/27(月)～ 通常登校(通常日課)

※当面の間、登校に不安がある児童生徒については、登校を控えることもできる。
(9/1～15日以外) この場合、欠席扱いにならない(出席停止扱い)。

< 参 考 >

(例) ○年○組 オンライン学習予定表 (○月○日)

四日市市立○○学校

時刻	内 容 など	
8 : 30 ~	朝の会	※8 : 20 ~ 8 : 30 の間に接続してください。 ID : ○○○○○○○○○ パスワード : ○○○○○○ ・出席確認、健康観察 ・1日の流れの説明
8 : 45 ~	1限目	①算数 (○○先生) 【準備するもの】教科書、ノート、計算ドリル 【内容】「10000より大きい数を調べよう」など
9 : 30 ~	休み時間	
9 : 35 ~	2限目	②国語 (○○先生) 【準備するもの】教科書、ノート、国語辞典 【内容】意味調べ
10 : 20 ~	休み時間	
10 : 40 ~	3限目	③理科 (○○先生) 【準備するもの】ノート 【内容】夏休みに取り組んだお友達の自由研究を紹介します。
11 : 25 ~	休み時間	
11 : 30 ~	4限目	④書写 (○○先生) 【準備するもの】教科書、ノート 【内容】硬筆
12 : 15 ~	お昼休み	※一度、接続を切ってください。
13 : 30 ~	5限目	※13 : 25 に再度ログインをしてください。 ⑤国語など (○○先生) 【準備するもの】教科書、ノート、漢字ドリル 【内容】新出漢字などを進めます。
14 : 15 ~	終わりの会	・明日の連絡 ・宿題について

オンライン学習実態調査の集計について

1 オンライン学習期間の平均授業時数について (5h×11日)

【小学校】

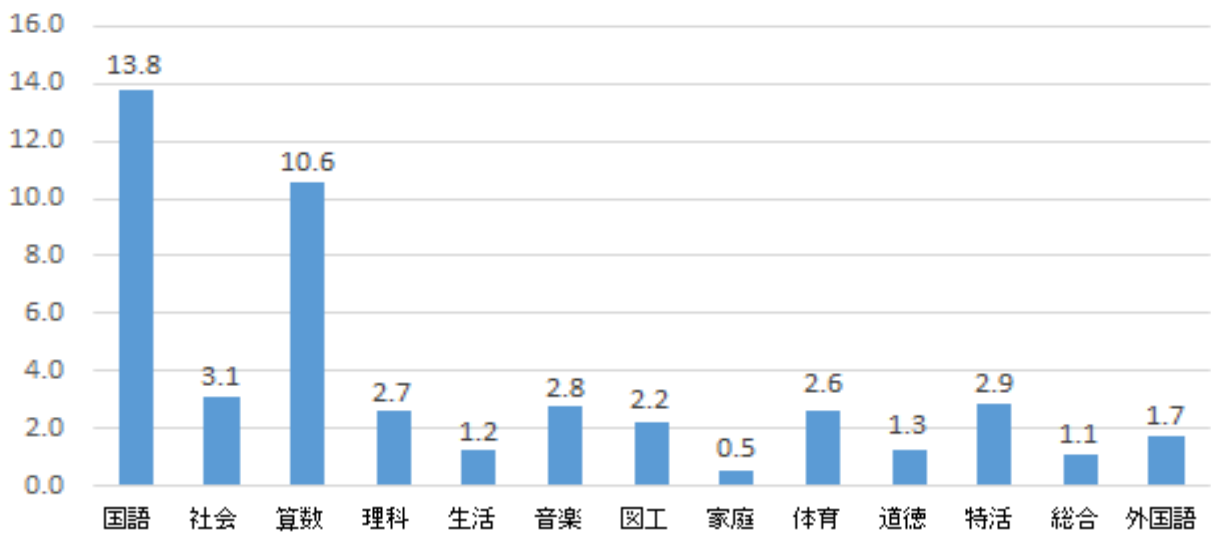
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平均	46.2	46.3	46.4	46.4	47.3	47.3

【中学校】

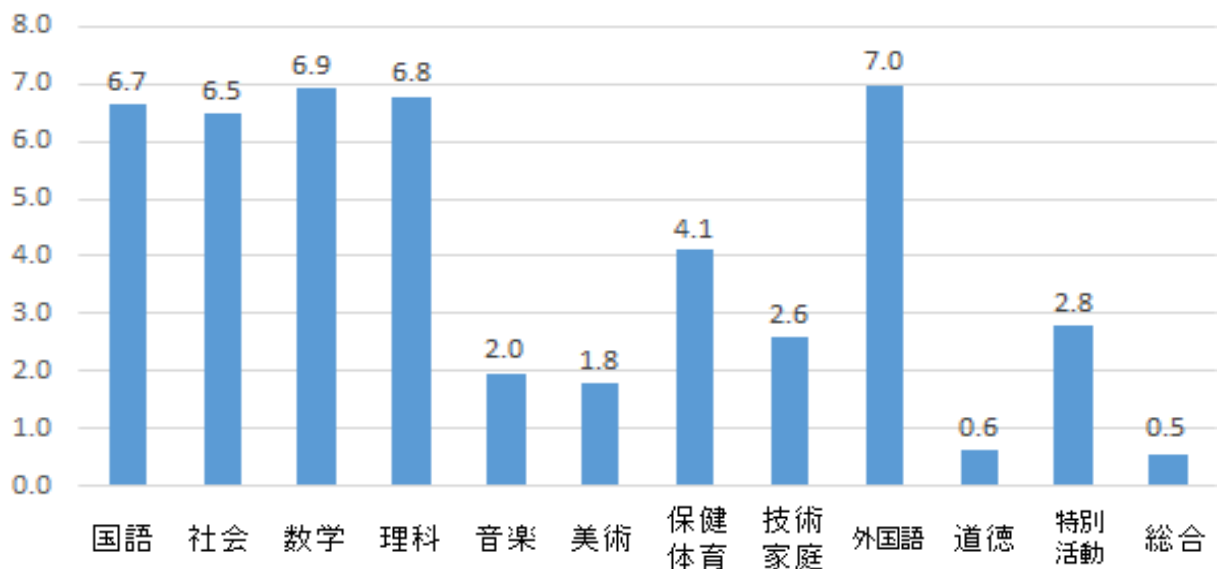
	1年	2年	3年
平均	48	48	48

2 各教科のオンライン学習平均授業時数について (5h×11日)

【小学校】



【中学校】



○オンライン学習の様子

① 小学校



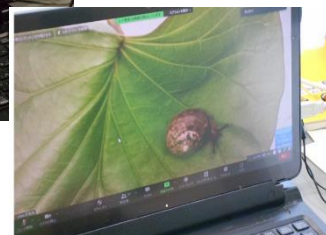
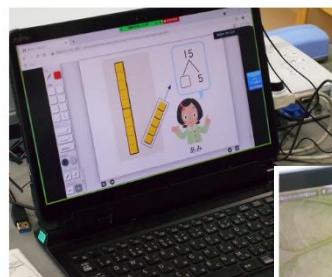
- ・ 少人数グループを活用した授業
ブレイクアウトルームを活用し、5人程度のグループを作成。教員が順番にグループに参加して子どもたちの様子を確認。先生や友達の様子を見ながら、楽しく授業を行う様子が見られた。



- ・ 体育科の授業
画面を見続ける活動が多いため、体を動かすような授業も実施。画像は、体育科の授業で指導者以外の教員とも協力しながら授業を展開。運動会の表現の練習やラジオ体操なども実施。



- ・ 複数の教員による役割分担
その時間の担当が授業を進め、もう一人が、タブレット操作を行うなど、複数の教員が授業者とその支援を行う。放課後、学年で授業の進め方などを確認。教科担当を決めて実施。



- ・ 画面共有
教科書を子どもたちの画面に共有したり、実物を映したり、パワーポイントで作成した資料を見せたりしながら指導。子どもたち一人一人が実物などを身近に見ることができるなど、タブレット端末の特性を活かした授業が行われた。

<子どもや先生方の様子>

○子どもの様子

- ・ 画面や音声の切り替え、リアクション機能の使い方などが、スムーズにできるようになっている。
- ・ 先生の質問に、チャットやホワイトボードを使って答えている。
- ・ 低学年の児童は、集中して授業を受けることが難しい場面もある。

○先生の様子

- ・ オンラインでマスクを外していたため、子どもの表情がよく見えたと言っていた。
- ・ 学年で役割分担をしながら、授業を進めている。
- ・ 回数を重ねることで、先生たちのICTスキルが上達している。
- ・ 音声トラブルの児童に、ホワイトボードを活用した。

② 中学校



・英語の授業

黒板を使った通常の授業に近いスタイル。英語教員とYEFとのTTの授業も、二人で同時に教えることができる。



・理科の授業

実験の様子を動画配信。手元を画面カメラで撮影して画面共有。手元が大きくみえるので、通常の授業よりわかりやすい。



・同時双方向による指導

教員が子どもたちに話しかけたり、返答を受けたり、子どもたち同士でコミュニケーションをしたりしている。



・オンライン動画をHPで配信

授業が受けられなかった場合や、学び直しに活用。IDとパスワードでHPにログイン。期間限定配信。

<子どもや先生方の様子>

○子どもの様子

- ・生徒もICT機器の使い方がレベルアップしている。
- ・生徒の手元を大きく映すことで作業の様子を確認できる。
- ・不登校傾向の生徒が、オンライン学習に参加することができた。
- ・個別学習となるため、授業の内容を理解することが難しい生徒がいる。



○先生の様子

- ・生徒の反応をみながら、授業を進めている。
- ・放課後、研修会を持ち、ICT環境を整えたり、情報共有したりしている。
- ・授業の動画を撮影し、学校の共有フォルダに保存することで、自身の授業の振り返りをするとともに、他の先生たちの授業をみることができ、スキルアップにつながっている。

<参考>

①近隣市町の対応状況

	分散登校	オンライン学習	通常授業（短縮）	通常授業
四日市市	8/30～31(個別登校) 9/16～17	9/1～15	9/21～24	9/27～
桑名市	9/1～2	9/3～10	9/13～17	9/21～
鈴鹿市	9/1 9/2～3、9/13～14 (中は9/13のみ)	9/3～10 午前3限のみ 9/15～17 小：午前3～4限 中：5限(9/14～)	9/21～24 (午後)小：プリント学習 (午後)中：オンライン学習	9/27～
川越町	8/30～31 9/13(個別登校)	9/1～9/10 9/14～9/17	9/21～24	9/27～
菰野町	—	9/1～9/15	8/30～31、9/16～9/17	9/21～
朝日町	8/30～	—	—	9/27～

②近隣市町 給食開始日

四日市市：9/21～ 桑名市：9/21～ 鈴鹿市：9/27～

菰野町：9/21～ 川越町：9/21～ 朝日町：小…9/1～、中…8/30～

(3) 学校再開後の教育活動について

次のとおり、感染症対策を徹底した通常登校での教育活動を実施する。

ただし、市内の感染者が急増するなど状況に変化が生じたときは、あらためて対応を検討する。

①児童生徒及び教職員の健康管理について

- ・登校時、児童生徒及び教職員に発熱等の風邪症状がある場合には、自宅で休養することを徹底する。
- ・日頃の体調と比べて少しでもおかしいと思う症状がある場合は、できる限り早期に医療機関を受診するよう勧める。
- ・児童生徒及び教職員の同居の家族に発熱等の風邪症状がある場合は、登校を控えるよう、保護者に依頼する。
- ・登校時は、空調の適切な使用と換気の徹底(CO2 モニターの活用)、手洗いの実施、児童生徒同士の密を避けるなど、基本的な感染防止対策を徹底する。
- ・本人及び同居の家族が陽性となった場合、濃厚接触者となった場合、検査を受ける場合には、連絡するよう再度徹底する。また、検査を受ける場合(同居の家族を含む)は、結果が分かるまでの自宅待機について協力を依頼する。

②その他教育活動について

- ・部活動(中学校)

(1) 県内の練習試合及び合同練習については、感染症対策を十分に行ったうえで、実施する。県外への移動を伴う部活動については、緊急事態異宣言、まん延防止等重点措置(特に重点措置を講じる区域)が発令されている地域における活動は避けるとともに、当該都道府県や区域の学校が来県することも同様とする。

(2) 密集を避けるため活動時間などを工夫するとともに、活動中は大きな声での会話や応援等を行わない。

(3) 用具等については、不必要に使いまわしをしないととも、こまめに消毒する。

・修学旅行

宿泊施設・見学地や移動において、可能な限り一般客等と混同しないなどの感染防止策を徹底するとともに、保護者の理解と必要な協力を得たうえで実施する。

・運動会（小学校）、体育祭（中学校）

(1) 運動会・体育祭を実施する場合は、感染症対策を講じてもお感染のリスクが高い活動は、実施について慎重に検討し、種目を精選するなど、感染防止対策を確認、徹底する。

(2) 保護者等へ公開する場合には、必要性について十分に検討し、公開する場合には、来場者の人数を制限したり、誘導したりする等、「密集」を回避する対策を検討する。

・自然教室

日帰りで実施（1泊2日のうち1日目）

3学期の中学校の自然教室については、今後検討。

・社会見学

今後の感染状況を鑑み、実施の必要性を十分に検討する。

実施する場合は、都道府県独自の警戒宣言や措置等が発令されている地域をさけて計画をする。

(4) コロナワクチン差別防止に関わる学校での取組について

①周知・研修等

- ・校長会 7月・9月 「コロナウイルスワクチン差別防止について」
- ・人権教育リーダー育成研修での啓発 8月
「コロナウイルスワクチン差別防止について」
- ・市教委及び県教委作成教材の活用



②学校での取組（授業及び保護者・地域への周知）



「ワクチンについて考えよう」をテーマに、道徳の授業を実施。(小)



新型コロナウイルスやワクチン接種を題材に道徳の授業を実施。(中)

ストップ! ワクチン差別

12歳の誕生日を迎えた児童もワクチン接種ができるようになりました。さまざまな理由によってワクチンを接種できない人、接種を望まない人に、接種を強制したり、差別的な言動をすることがないよう、学校でも話をしたり、道徳の授業で考えたりしていきます。

学校だよりでの周知

お知らせ

常盤中学校は、『シトラスリボンプロジェクト』に賛同しています。みんなで広げよう、シトラスリボンプロジェクト.pdf

Citrus Ribbon PROJECT

四日市市学校感染症だよりです。16日、17日に配付します。ご一読ください。
[学校感染症だより9月号.pdf](#) [学校だよりNo.8.pdf](#)
[STOP「ワクチン差別」.pdf](#)

HPでの周知

(5) オンライン学習に関する総括について

①学校からの意見

オンライン学習について学校からは次のような意見があった。

- (1) 国語の漢字学習、理科の演示実験など、オンライン学習でも指導しやすい内容については、効果的に学習を進めることができた。また、感染リスクの高い教育活動（音楽の楽器、体育のダンスなど）を安心して指導できた。
- (2) 双方向でのやり取りができ、児童生徒の質問にも答えることができた。さらに、ブレイクアウトルームを活用することで、グループでの話し合いを行うことができた。
- (3) 教員と児童生徒ともにICT機器のスキルが向上し、学校再開後の授業に活用が期待できる。
- (4) 普段は発言が少なかったり、不登校傾向があったりする児童生徒の中には、積極的に参加できた児童生徒がいた。
- (5) ICT機器を活用しない臨時休業では児童生徒同士や児童生徒と教員との関わり合いはないが、ICT機器を活用したことで、関わり合いをもつことができた。
- (6) 対面授業ほどの教育効果は期待できないが、児童生徒の学びを止めずに教育課程を進めることができた。

②成果と課題

<成果>

- ・オンライン学習の経験を積むことで、教師や児童生徒のICTスキルが向上した。
- ・オンラインにおいても学習効果が期待できる内容や教科を選びながら実施することで、児童生徒の学びを止めずに学力を保障することができた。
- ・ある学校でのアンケートでは、「オンライン授業は良かった」と答えた生徒が90%以上であった。理由の1つに、「学校で行っている時と同じように学習ができた。」という意見があり、児童生徒は学習内容をしっかりと理解することができたことが、90%以上という満足感につながっていると考えられる。

<課題>

- ・通信環境が安定せず、落ち着いて授業に臨めなかった部分があった。
- ・5限フルでオンライン授業を行った学校は、児童が疲れを訴えたため、オンラインとオフラインを織り交ぜた。今後は健康面も配慮した授業の方法を検討していく必要がある。
- ・今回のオンライン学習期間は11日という短期間であったが、これが長期化すると、オンラインにおいても学習効果が期待できる内容（基本的な「知識」など）だけでなく、実際に活動する中で身に付ける技能や、「思考力、判断力、表現力等」などの資質・能力、多くの友達との関わりの中で身に付ける「学習の基盤となる資質・能力」などを身に付けさせる必要が出てくる。オンライン学習では指導することができない内容についても再認識し、現在の対面授業において指導を進める必要がある。
- ・タブレットは各教室に配備されており、中学校では教科担任制で教科ごとにその教室に入る教員が入れ替わるため、タブレットを職員室に持ち込んで教材を作成したり、授業準備を行うことが困難である。教員用に1人1台タブレットを配備し、業務の効率化を図る必要がある。
- ・児童生徒に1人1台タブレットが配備され、今後、一層のオンライン学習が進んでいくことが見込まれるため、経済的に困窮している家庭に対する支援についても検討していく必要がある。